

今日の説教のポイント <創世記 12 章 1～9 節>

神の働きの新しい開始！ 「祝福」の真の意味は？

①11 章までは人間の罪の姿、12 章は神の祝福の働きの開始

創世記 11 章まで、創造主なる神様に目を向けず、逆にどんどん神様から離れて行く人間の姿が記されていました。しかし、この 12 章で新たな内容の開始です。それは、そのような人間をなお見捨てず、むしろ呼びかけて招いて下さる神様の祝福の働きの開始です！ それに答えて生きる新しい人間の出現の開始です！

②主なる神との驚きの出会い

7 節で「彼に現われた主のために」と記され、8 節には「そこにも祭壇を築き、主の名を呼んだ」とあります。自分に呼びかけられた神様との出会いはアブラムにとって驚きだったのです。私たちの場合はどうでしょうか？ 主の教会に導かれ、聖書のイエス・キリストを注視するようになった私たち。それは、神様が私たちに用意して下さった、アブラムに負けないほどの、主との驚くべき出会いなのです！

③この神に呼びかけられたから、それに従ったアブラム！

原発事故で故郷を追われた人々を思うまでもなく、これまで営んできた生活の全ては、私たちの人生にとってかけがえのないもの、それを奪われれば生きる力を失ってしまう程のもののように思えます。しかしここには、それら全てを後にして行き先分からぬ世界に旅立つ人間の姿が記されています。それほど、アブラムにとってこの神様との出会いは圧倒的なリアリティー（現実性）を持っていたのでしょうか。

④祝福の内容は？ 土地獲得ではなく、この神と共に旅すること！

彼はこの神様の言葉に従いました。語りかけられた主の言葉には、従った方がいい理由も言われています。祝福されるから、です。この「祝福」で何を考えるべきでしょうか？ イスラエルの土地が与えられることでしょうか？ そうではありません。アブラムはそこには入れず、しかも彼はそれで満足したのです。この世の何かを得られるのではなく、この世界を造り、全ての主であり、私たちに神の国を用意して下さっているこの神様と共に生きられること、旅すること。それ自体が祝福なのです！ ヘブライ人への手紙 11 章 8-16 節、必読。